

令和元年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	義務教育学校の中核を構成するリーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラムの開発
事業実施代表者名	附属釧路小学校長 内 山 隆 附属釧路中学校長 早 勢 裕 明
実施附属学校名	附属釧路小学校・附属釧路中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>過疎化が進む地域では、「民主的な国家及び社会の形成者」としての『地域の担い手』育成を念頭においたリーダーシップ教育及び、リーダーのリーダーシップを支えるフォロアーシップ教育が重要になる。本研究は、次代の地域の担い手として、他者を理解し、思いやり、インクルーシブな感覚と自己の責任を持ち合わせたリーダーシップ・フォロアーシップを育むする汎用性のある学習プログラム開発に取り組むものである。</p> <p>リーダーシップ教育は、これまで学校内において、特別活動等を中心に経験的に指導されてきたが、教育課程の中で体系的・系統的に意図的に研究・指導されることが少なかった。また道東地域においては、初任段階教諭の割合が多い小規模校や、小規模校であるがゆえに免許外指導が不可避の中学校が多く存在することから汎用性のあるプログラム（モデル）が求められている。</p> <p>そこで、協働的な学習における、拡大掲示物（絵図）、書画カメラによるリアルタイムでの即時的な映像、iPadを活用して収集したり作成したりした情報等の教材開発や効果的な活用方法について研究することで、リーダーシップ・フォロアーシップの柱となる資質・能力である社会的協働性やリテラシー、コミュニケーション力が育まれるとともに、公立学校に対して、「リーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラム」について情報提供ができると考えた。</p> <p>具体的には、これらの研究を推進するために本経費をiPadの整備、拡大プリンターによる印刷経費として支出した。そして、小学校では、拡大掲示物（絵図）は、生活科はもちろん、高学年の国語科と社会科、理科といった教科で、iPadは理科の実験、体育科の動きや戦術確認、生活科や社会科での「校外学習」における情報共有等の場面で活用した。中学校では、昨年度委託を受け成功裏に納めた情報活用能力育成事業をさらに推進し、全ての教科等において教育活動でのICT（特にiPad）の活用に取り組むと共に、みらプロセミナーと題して、ICTに特化した授業公開を行うなど、昨年以上に積極的にICTを活用した授業開発、授業公開を行ってきた。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、 500字程度で記述)	<p>小学校においては、拡大掲示物（絵図）もiPadも、情報や互いのイメージを共有することで協働的な学びが生まれ、その中でのかかわりを通して、社会的協働性やコミュニケーション力を発揮し育むような実践に取り組むことができた。</p> <p>これらの結果は、学校評価において、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」に係る質問に対し、保護者 82.5 ポイント（前年比 +4.3）、教職員 83.3 ポイントという結果としても表れた。</p> <p>ただ、プログラム開発の一層の充実を図るためには、校内のICT環境整備（iPadの1人1台配置）を進める必要がある。</p> <p>また、中学校では昨年設定した情報活用能力の育成のためのアンケートにおいて今年度も多くの項目において上昇が見られた。特に「コンピュータやiPadを使った授業では、情報機器を使用しない授業より興味や関心を持って取り組むことができている。」「わからないことがあったら、</p>

	<p>辞書やインターネットなどの調べる方法を考えて、いろいろな方法で調べるようにしている。」の項目においては大きな向上が見られた。スクールサーベイも昨年度同様で、「共同体的学習意識」において数値が昨年度より向上したことは、ICT 活用した授業の影響が少なからずあったと考えられる。</p> <p>さらに、iPad を活用した授業については、みらプロセミナーと題して広く周知し、全道各地から参会者が来たことや、同セミナーにおいては宮城教育大学から安藤明伸教授をお招きし、講演を行ったことを通して広く貢献することができたと考える。また、先進校である三田国際中高等学校から2名を講師として招き活用の仕方セミナーを開催し、本校教員はもちろん、地域の方にも参加いただき盛会に終わった。参観者向けのアンケートでも好評を得ることができた。加えて、昨年度のIE-Schoolの取組に関する報告書を管内の公立学校等に送付し、広く活動内容を周知した。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>小中一貫教育（9年間）の中で、各教科等の目標や活動内容に応じ、学習課題や自身の考え、その根拠等を、他者と共有することで「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、リーダーシップ・フォロアーシップの柱となる資質・能力である社会的協働性やリテラシー、コミュニケーション力を育むためには、一層の視覚的情報の教材化、ICT 機器の環境整備を進める必要がある。</p> <p>加えて、新学習指導要領においては、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしている。この点からも、学校におけるICT環境整備が喫緊の課題といえる。</p> <p>本事業として、または別事業として、iPadの1人1台配置（更新含む）を予算措置できるようにしていきたい。</p> <p>また、本事業による「リーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラム」については、ホームページ上で実践事例として随時、積極的に情報提供するとともに、授業力向上セミナーや授業実践交流事業等を通して、提案していく予定である。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>①附属釧路中学校 HP http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/</p> <p>②附属釧路小学校 HP https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_syo/</p> <p>* 「研究活動」の実践事例、日常の学習活動の様子として紹介</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

【別紙1】 附属釧路小学校



生活科 探検して見つけたことを拡大地図に書き込みながら…



社会科 iPadで調べたり，見学の際に記録したりしたことをもとに，拡大ワークシートに書き込みながら…



体育科 技の出来栄を iPad で撮影し，確認しながら…

【別紙2】 附属釧路中学校



英語科における iPad を活用し、言葉や伴う音声を調べる場面



技術科における iPad を活用し、プログラムの基礎を互いに学ぶ場面



美術科の作品制作時の対話場面



音楽科における iPad を活用した作品づくりの場面



1年宿泊研修時における iPad の基礎学習の場面